



 経営アカデミー

サービス資料



- 経営アカデミーとは P.03
- 経営アカデミーが選ばれる理由 P.05
- コース紹介 P.07
- 修了後のフォロー P.11
- 修了生の声 P.14
- 人事担当者の声 P.17
- 会社概要 P.20

経営アカデミーとは

経営アカデミーとは

経営アカデミーは、日本生産性本部により1965年に創設された、我が国最初の本格的なビジネススクールです。日本生産性本部は、戦後日本の経済復興と高度経済成長を支えて参りました。現代においては、グローバル化や急速なデジタル化・人口減少など環境が激変する中、あらゆる事業・運動展開により産業の生産性向上に取り組んでいます。中でも経営アカデミーは、企業における中核人材の育成という重要な目的にむけ、毎年次世代経営幹部候補者を養成し、15,000人を超えるOGOBを輩出しております。

運営組織

公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー

The Academy of Management Development, Japan Productivity Center

主な導入企業

NEC

TERUMO

nissui
まだ見ぬ、食の力を。

NISSHIN
oillio

Asahi
GROUP

CHUGAI
Roche ロシュグループ

kikkoman
おいしい出汁をつくりたい。

MS&AD
三井住友海上

ANA

JR
JR東日本

りそな銀行
RESONA

東京メトロ

ENEOS

KONICA MINOLTA

経営アカデミーが選ばれる理由

経営アカデミーが選ばれる理由

企業が選ぶ、次代の経営幹部・経営者を育成する伝統あるビジネススクールです。

1 経営者視点の獲得

全社・組織の高い視座で、短期・長期目標の同時追求と、それらを具現化する戦略立案と実行力を養う

2 不確実な経営環境に立ち向かう思考力養成

アカデミックな思考法と異業種の参加者との深い議論に基づく独自の研究活動を通じて、本質に迫る力と広い視野を養う

3 強固な人材ネットワーク構築

共通体験を通して得られる深い信頼関係は、将来の事業成長を共に考える強固な人材ネットワークとなる

コース紹介

コース紹介 / マネジメント・リーダー養成

コース名	開催期間	主な対象	コースの目的・目指す人材像	参加者（）内10%税込	
				賛助会員※※	一般
トップマネジメントコース	2024年7月～12月	取締役、執行役員、 事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるト ップリーダーの養成	130万円 (143万円)	140万円 (154万円)
	水曜日【月3～4回】18:00～ 20:30				
	合宿3回、海外調査（希望者 のみ）			※合宿費別	
経営戦略コース	2024年6月～2025年3月	部長・課長（全職 種）	自社ビジネスのあり方を見直し、 次の戦略を深く多面的に考える リーダーの養成	121万円 (133.1万円)	131万円 (144.1万円)
	火曜日【月3～4回】18:00～ 20:30				
	合宿2回			※合宿費別	
技術経営コース	2024年6月～2025年2月	技術部門、研究開発 部門、事業開発部門 の部長・課長・リー ダー	技術を起点に社会的価値を創出 できる人財の育成	111万円 (122.1万円)	121万円 (133.1万円)
	水曜日【月2回】9:30～16:30				
	合宿3回			※合宿費別	
組織変革とリーダー シップコース	2024年7月～2025年3月上旬 (2月下旬)	部・課・プロジェク トチーム等の組織運 営を行うリーダー	人・組織・戦の視点で組織変革 を推進できる次世代リーダーの 養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
	水曜日【月3～4回】18:20～ 20:50				
	合宿3回、フィールドワーク1 回			※合宿費別	

コース紹介 / プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	開催期間	主な対象	コースの目的・目指す人材像	参加者（）内10%税込	
				賛助会員※※	一般
マーケティング戦略コース	2024年6月～2025年2月	マーケティング・営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
	月曜日【月3～4回】15:00～17:30/18:00～20:30				
	合宿3回			※合宿費別	
生産革新マネジメントコース	2024年6月～2025年2月	生産関連部門（製造、生産管理、品質、調達など）のマネジャー、リーダー	現場と経営の観点で、ありたい姿を描き「強い工場」をつくる人材の養成	103万円 (113.3万円)	113万円 (124.3万円)
	木・金曜日【月1～2回】10:00～17:00				
	合宿3回、国内・海外調(希望者のみ)			※合宿費別	
人事革新コース	2024年7月～2025年2月	人・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人的資本経営と企業変革をリードする戦略人事リーダーの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
	木曜日【月2～3回】14:00～20:00				
	合宿2回、企業訪問1回			※合宿費別	
経営財務コース	2024年7月～12月	事業や経営企画、経理や財務、IRの担当	経営と財務をつなぐビジネスリーダーの機成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
	木配日【月3～4回】18:20～20:50				
	合宿1回			※合宿費別	

コース紹介 / イノベーション・リーダー養成

コース名	開催期間	主な対象	コースの目的・目指す人材像	参加者（）内10%税込	
				賛助会員**	一般
事業変革イノベーションコース	2024年6月～12月	事業責任者（執行役員、部長）、企画、戦略、管理等の部・課長、スタッフ他	トップや現場を巻き込みながら変革に邁進する中核リーダーの養成	137.5万円	148.5万円
	【月2～3回】 18:00～20:30				
	合宿3回			※合宿費別	
イノベーション・デザインコース	2024年6月～9月	中堅・若手リーダー（全職種）	企業の中で社会を変革するイノベーション・デザインリーダーの養成	73.7万円	84.7万円
	原則金曜日 13:00～18:30				
	合宿2回			※合宿費別	

コースに関する詳細はコチラ >

修了後のフォロー

厳選プログラムをマスター（修了者）、ご派遣企業の皆様にご案内

当アカデミーを修了された後、「さらに自己研鑽を積める場を持っておきたい」「もう一度、この講義を聞いてみたい」といったOB・OGの声にお応えするために、経営アカデミーの各コースより選び抜いた指定講義や日本生産性本部の各種プログラムをご案内。

プログラム例

- ESGと高付加価値経営（エーザイ 柳良平氏）
- マイクロソフトの企業文化の変革と人事の取り組み
- ファンダメンタル分析（早稲田大学大学院 薄井彰教授ほか）等

OB・OG会の運営を支援

グループ単位で継続的に開催されるOB・OG会に加え、コース全体や年度を越えた同じグループ研究担当講師を囲む会など、メンバーによる情報交換・事例共有の場として事務局がその開催・運営をサポート。

講演会・情報交換会（オフライン）

講演会へのご招待、各種優待講座・イベント等、経営アカデミー修了後も最新の知識・情報を吸収するためのサポート体制を整えております。経営の第一線で活躍されるOB・OGや専門領域における第一人者として高い能力を発揮されているOB・OGを招き、修了メンバー相互に研鑽を深める場を提供してまいります。

経営の重要テーマにかかわるコンテンツのご提供

経営課題、次世代幹部養成に取り組むOBOGに資するコンテンツ、活動の発信（WEB記事・メルマガ）

メルマガ月3回以上

プログラム例

- グループ研究の実績報告

[詳細はコチラ >](#)

修了生の声

修了生の声 / 株式会社ブリヂストン様



2011年度 技術経営コース

BRIDGESTONE

株式会社ブリヂストン
増谷氏

きっかけ

新しい役割（ダイバーシティ推進）時、上司（経営アカデミーOB）の勧めでステップアップを志向

受講後

年齢、役職を超えて発言した経験が社内でも議論をリードする立場に代わり、部長としての責任を負えるまでに成長

現在

2021.6就任 DE&I・組織開発部長 2022.10 人材育成部の上席主幹

同社から修了生、計64人（2024.3月現在）



1994年人事労務コース
(現・人事革新コース)



日清オイリオグループ株式会社
瀬川氏

きっかけ

教育研修担当時、選抜されて参加。グループで最年少で参加。

受講後

議論とその振り返りを通じ人事広範の知識を深めるとともに意見の違いを納得するまで理論的に議論して合意を得るプロセスを経験。人事専門誌「労政時報」に研究掲載、達成感を味わい自信を深めた。年齢、役職を超えて発言した経験が社内でも議論をリードする立場に代わり、部長としての責任を負えるまでに成長。

現在

2024.4 執行役員 人事労務部長 兼 法務総務部長 兼 人事企画部・健康経営推進部担当

同社から修了生、191名（2024.3月現在）

[修了生の声はこちら](#)

人事担当者の声



全日本空輸株式会社
柳沢氏

経営アカデミー派遣の理由・受講者の変化

「人的ネットワークの構築」。

これこそが弊社が経営アカデミーに社員を派遣する一番の理由です。
企業から選ばれた人材が集まり講義を受け、
その後の懇親会により構築する人的ネットワークを期待している訳ではありません。

グループ研究を通じた、多様な人材との侃々諤々の議論をはじめ、
業務繁忙の中での論文執筆といった壁を、仲間とともに乗り越えた先にある人的ネットワークを意味して
います。これが経営アカデミーの醍醐味だと考えます。

壁を乗り越えた社員の変化は日常業務のアウトプットに変化として表れます。

業務終了後の、経営アカデミーの仲間との継続した懇親会も、
各社の最新情報を得るための行動変容だと信じています。

人事担当者との連携

1

本人の成長過程、学び、気づき

本人のアウトプット、受講時のリアルから事務局が人事担当者に連携

2

人材育成の場をきっかけにした経営課題の議論

参加者の視座の高まり、視野の拡大から見える経営視点のアウトプットの抽出

3

自社の修了生情報の情報提供

1965年創設からの修了生データベースの蓄積、活用

4

他社の人材育成施策の情報提供

経営アカデミー活用企業とのコミュニケーションから見える取組み事例を横展開

会社概要

公益財団法人 日本生産性本部 経営アカデミー

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階

03-5221-8455

academy_info@jpc-net.jp

<https://www.k-academy.jp>

お問合せはコチラ

経営アカデミーのコースの一つ
「イノベーション・デザインコース」が
書籍になりました。



書籍

「課題ドリブン・イノベーション」

野中郁次郎 名誉学長と新貝
康司氏との出版記念対談